

## インターバンクの声（2017年5月1日）

4月中のドル円は、4/13から4/20までの間に取引された108円台をドルの安値圏に、高値圏が月初の10日間と月末3日間に取引された111円台と、上下3円60銭余りの値幅内で推移した。

4月最終取引日となった週末の海外市場では、ニューヨーク市場の朝方に発表された米1～3月期GDP速報値が前期比年率で0.7%増と、前期の2.1%増から急減速したためにドルの急落が心配された。

ただ、発表直前には事前の1.0～1.2%増予想を更に下方修正する向きも多かったようで、むしろ発表後にはドルが買われる反応を見せた。

GDP自体が予想したほど悪化しなかったとの判断と、同時に発表された雇用コスト指数で賃金の上昇が確認されたことで物価上昇への期待が高くなったことが影響したようだ。

しかしドルの上値は重く、米長期金利が徐々に低下し始め、株価も利益確定の売りが優勢となったこともあり、結局GDP発表前の水準までドルが売り戻されている。今週の東京市場は、2日間の営業後に3日間休場となるが、米連邦公開市場委員会(FOMC)や米雇用統計の発表もあり、休暇となる人達にとってもニューヨーク時間は相場が気になりそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。